

## 目次

序論	二次的自然、気候、風景
第一章	歌題と四季の創造
第二章	視覚文化、和歌と連歌
第三章	自然の室内化——いけ花と社会的儀式
第四章	田舎の風景、社会的相違、葛藤
第五章	季節を越えて——護符と風景
第六章	年中行事、名所、娯楽
第七章	季節のピラミッド——パロディと本草学
結論	歴史、ジャンル、社会的共同体

図1 「四季の創造 日本文化と自然観の系譜」講演目次

## 『源氏物語絵巻』 室内化された「二次的自然」



図2 『源氏物語絵巻』「東屋(一)」 徳川美術館所蔵

## 『源氏物語絵巻』「御法」

自然と一体化する場面



図3 『源氏物語絵巻』「御法」 五島美術館所蔵

## 復元された里山



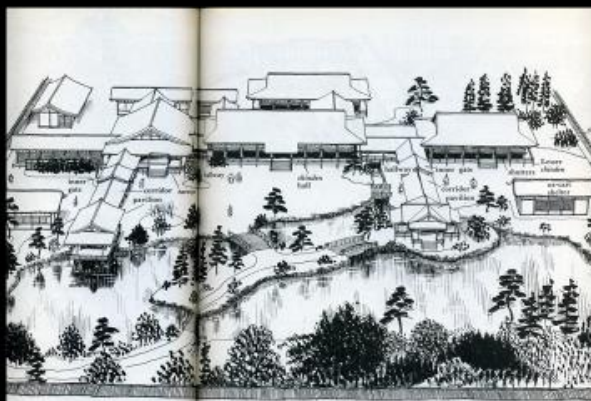
図4 永井和男「里山」(2007)

## 里山の歴史

- 地方の荘園における農村とその環境
- 平安中期までの里山  
田の開発、「荒ぶる神（自然）」を克服するプロセス
- 平安末期以降の里山  
灌漑、治水、荒ぶる神から鎮守の神へ

図5 里山の歴史

## 平安時代の寝殿造の庭園



庭における中島——もともと神が降りる場所

図6 *What is Japanese architecture?* Kazuo Nishi and Kazuo Hozumi ; translated, adapted, and with an introduction by H. Mack Horton. (Kodansha International, 1985)

蓬萊の島、州浜、  
松、鶴

サントリー美術館



図7 蓬萊螺鈿蒔絵香合(サントリー美術館所蔵)

## 異類婚の物語

- 特に室町時代に発生する
- 植物と動物（特に、鶴、雁、菊のように和歌に読まれたもの）が、御伽草子、能などに主人公として登場する
- 動物と人間の結婚、植物と人間の結婚
- しかし、最終的に離別し、動物や植物は人間に殺される

図8 異類婚の物語

## 『菊の精物語』



図9 お伽草子「かざしの姫君」 (ハーバード美術館所蔵)

## 里山の環境史

時代	自然環境の特徴	新たな利用形態
平安以前	照葉樹林	木材として利用
平安以降	赤松林増加	樹木や落葉・落枝を燃料、肥料に利用
室町・江戸初期	禿げ山、低木林	
江戸中期以降	低木林、赤松林	治山

図10 里山の環境史

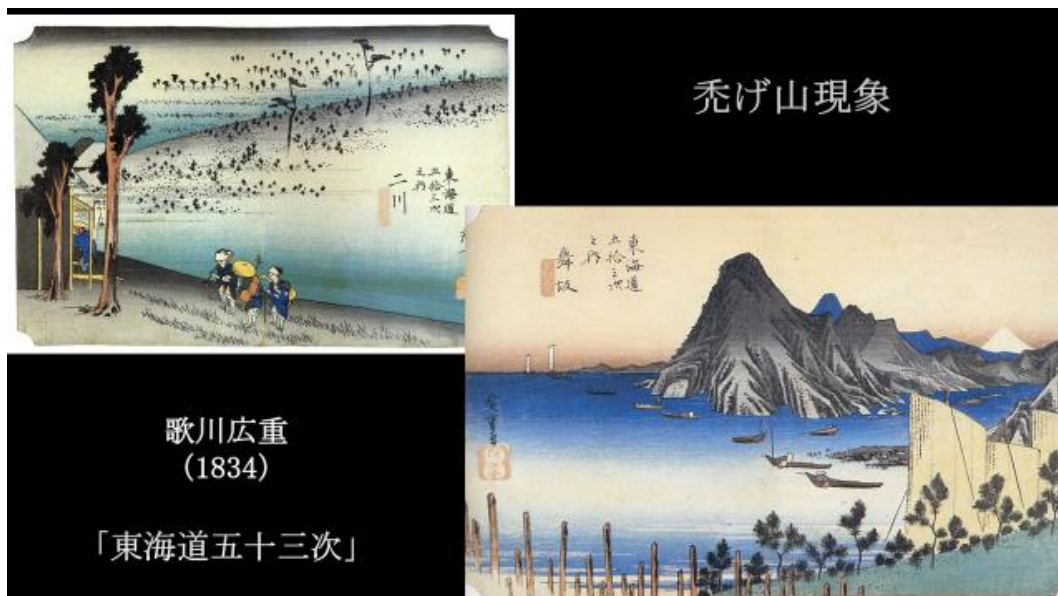


図11 (左)「東海道五十三次之内 二川 猿ヶ馬場」・(右)「東海道五十三次之内 舞坂 今切真景」歌川広重 (知足美術館所蔵)

## 室町と江戸初期

- ❖自然破壊： 都市建設、新田開発、森での過度な採取や伐採、貧弱な保全
- ❖田舎の村々： 禿山が生まれ、動物たちが本来の生息地から追い出され、オオカミなどの動物が人間を襲う
- ❖生態系のバランスが崩れ、物語の中での農村の動物や植物の精の役割がより顕著になる

図12 自然環境の変化 (室町と江戸初期)

## 『三十三間堂棟由来』 歌舞伎



図13 『三十三間堂棟木由来』 歌舞伎(国立劇場)のチラシ

## 『三十三間堂棟由来』

歌舞伎 (宝暦年間 1751-64)

白河法皇の病気の原因は、前世の髑髏が柳の古木の梢にかかって揺れるためと分かる。そこで、その柳を切り、三十三間堂の棟木にすることになった。横曾根平太郎と契り、一人子緑丸を設けていた妻お柳は実はその柳の精であったので、夫と子に別れを告げて去る。やがて柳は切り倒され、平太郎の木遣音頭で緑丸に引かれていく。

図14 『三十三間堂棟木由来』 あらすじ

## 三十三間堂 (京都)



図15 蓮華王院 三十三間堂(京都市)

「木遣音頭の場」  
切り倒された柳は緑丸に引かれていく



図16 『卅三間堂棟由来』 人形浄瑠璃文楽 「木遣音頭の場」

熊野速玉大社境内の椰の木



御神木の椰の大樹。  
熊野参詣のしるしと  
して椰の葉を守り袋  
に入れておくと災難  
除けになると信じら  
れていた。

図17 熊野速玉大社 御神木「椰」（和歌山県）